

## 12 透析患者指導における個人指導用紙の有効性を考える

健和会病院 透析センター

看護師 ○原田美保子 久保敷 彰子 久保田由子  
 龍口 孝子 南島 和子 清水 幸子  
 前島 学 久保田利恵 市瀬 和彦  
 筒井久美子  
 熊谷 悦子

同腎臓内科

### 【はじめに】

当院透析センターでは、プライマリーナース(以下受持ち看護師)による個人指導用紙(以下個人箋)を活用した指導を、毎月患者毎に行っている。この個人箋について患者、看護師からアンケート調査を行ない、個人箋を評価し、今後の課題について検討したので報告する。

### 【個人箋の紹介】

個人箋の内容は、「Ht、フェリチン、Alb、PreAlb、AST、ALT、LDL-C、BUN、Cr、KT/V、 $\beta$ 2MG、K、Ca、IP、I-PTH、ANP、蛋白摂取量、塩分摂取量」の正常値を10点満点のレーダーチャート化したもので、全項目正常値になると、「円が大きな丸になる」といった目に見える形であらわしたもの、およびCTR、便潜血の結果である。円の欠けている部分について自己管理指導をおこない、自己管理できないHtや $\beta$ 2MG等は、患者に結果説明を行い、透析カンファレンスで透析条件や治療方針の検討をしている。(図1)

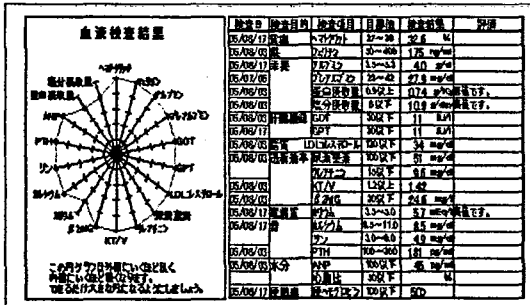


図1 検査データ

2ヶ月間の体重増加量、透析前の血圧の変化をグラフ化。単に体重増加量や血圧の値のみでなく、適正なDBWの把握や体重増加の変化から患者の体調を知ることに活用している。(図2)

別刷請求先: 原田 美保子 〒395-8522  
 健和会病院 透析センター

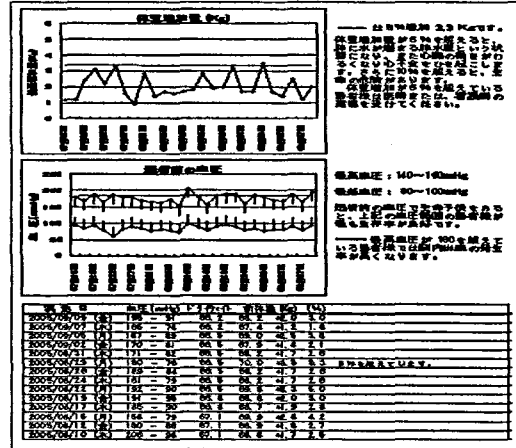


図2 体重・血圧のグラフ

今月の学習では、患者に伝えたいこと、秋にカリウム注意、冬にインフルエンザについてなどトピックス的なことを載せている。(図3)

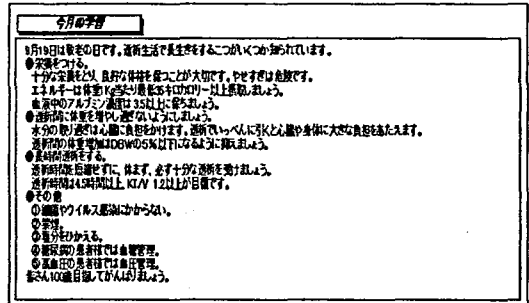


図3 今月の学習

おたより欄は、受持ち看護師が自筆で記入して患者及び患者家族とのコミュニケーションや指導に活用している。(図4)

お聞きいただきありがとうございます。今回の血液検査では、塩分の摂取量が少なくて良いと見えます。栄養のために、塩分の摂取量が少なすぎる場合は、血圧値が高くなり、食事の量を減らしてしまい、栄養が足りなくなってしまうかもしれません。塩分を適量摂取していただき、健康を維持してください。

透析センター 久保田利恵

図4 看護師からのお便り

この他、患者の生年月日、感染症、当院の連絡先、透析条件、透析時注射薬、禁忌など他院での緊急透析時に対応出来るよう情報を乗せてあり、患者には常に新しい個人箋を携帯していただくように説明している。(図5)

氏名	性別	年齢	生年月日	血液透析歴	透析日	透析時間	透析場所	透析機	透析液	透析液温度	透析液硬度	透析液電導度	透析液pH	透析液Ca濃度	透析液Mg濃度	透析液K濃度	透析液Na濃度	透析液Cl濃度	透析液HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup> 濃度	透析液SiO <sub>2</sub> 濃度	透析液Fe濃度	透析液Zn濃度	透析液Cu濃度	透析液Mn濃度	透析液Co濃度	透析液Ni濃度	透析液Pb濃度	透析液Cd濃度	透析液Cr濃度	透析液Mn濃度	透析液Co濃度	透析液Ni濃度	透析液Pb濃度	透析液Cd濃度	透析液Cr濃度				
田中 太郎	男性	65	1948.05.15	10年	3回	4時間	透析室	透析機	透析液	37.0℃	1.5	140	7.4	2.5	0.5	4.0	140	110	35	0.1	0.05	0.01	0.001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

図5 患者情報

【対象】血液透析患者120名中アンケート調査可能な83名の患者を対象に、無記名の投票形式でアンケート調査を依頼したうち回答があった58名

男性 30名 女性 16名 無回答 12名  
透析歴 1年未満 3名 1~3年 8名  
3~5年 11名 5~10年 31名  
無回答 5名

【患者アンケートの結果】

「個人箋を見ているか」に対し、「見ている」と答えた患者は 91%で、「見ていない」患者は9%。見ていない理由は「見てもわからない」が多く、「こわいから」とした回答もあった。透析歴、年齢別に有意な差は無かった。(図6)

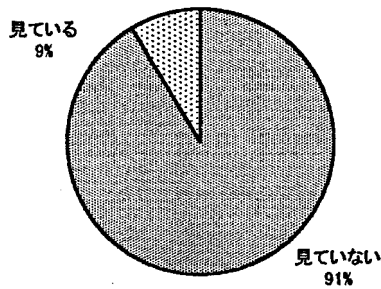


図6 個人箋を見ているか

「個人箋をもちいた受持ち看護師の説明はわかるか」に対し「わかる」と答えた患者は 83%で、「わからない」患者は 10%。「わからない」理由は、「説明がない」「言葉がむずかしい」「項目が多い」「忘れてしまう」であった。「わかりたくない」という答えもあった。透析歴、年齢別に有意な差は無かった。(図7)

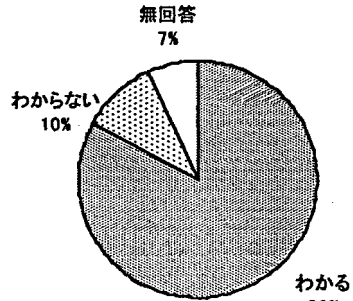


図7 看護師の説明はわかるか

「個人箋をもちいた受持ち看護師の説明に満足か」の問いに、「満足」と答えた患者は 77%で、「不満」の患者は 16%。不満があると答えた患者の9名うち3名が「看護師の説明がわからないために不満」とし、その他として「説明が一方的」「自分の考えと隔たりがある」の理由により「説明はわかるが不満」と答えた。(図8)

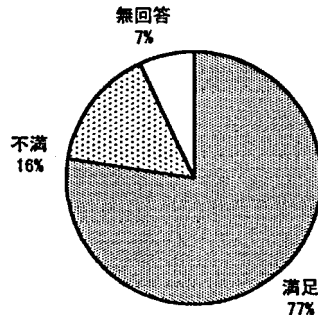


図8 看護師の説明に満足か

「自己管理に役立っているものは何か」の問いに、検査結果 46名、血圧の変化 41名 体重増加量 48名と半数以上の患者が自己管理に役立っていた。(図9)

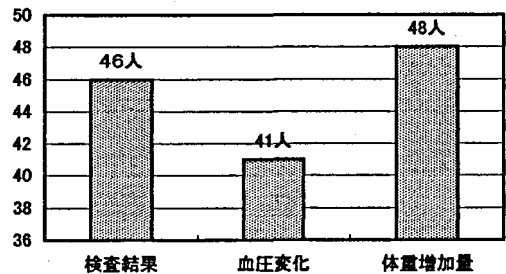


図9 自己管理に役立っているものは何か

「透析条件の項目を理解できるか」に対し41%の患者が、透析条件が理解できないと答えた。自分の透析条件がのっていることさえ知らない患者もいた。透析歴、年齢別に有意な差は無かった。(図10)

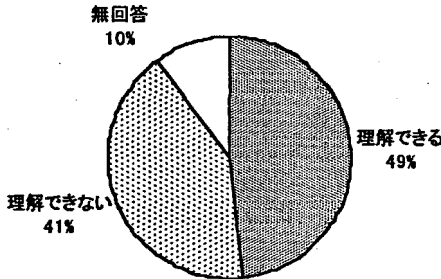


図10 透析条件を理解できるか

「自分が使用している注射薬を理解できるか」に対して、理解できるとした患者は58%で、28%は理解できないとした。透析歴、年齢別に有意な差は無かった。(図11)

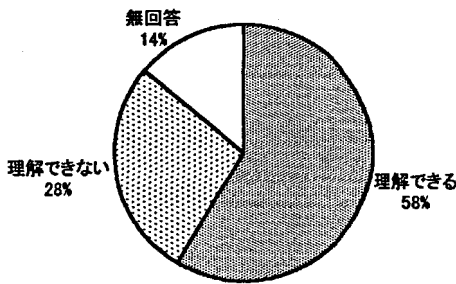


図11 使用注射薬を理解できるか

「今月の学習の項目が理解出来るか」に理解できるとした患者は、63%で、16%は理解できないと答えた。透析歴、年齢別に有意な差は無かった。(図12)

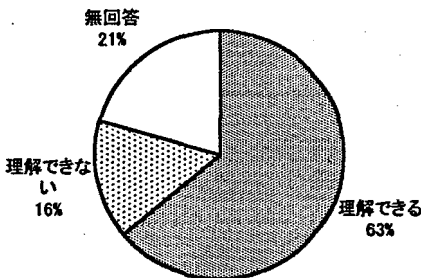


図12 今月の学習を理解できるか

「受持ち看護師からのお便りを望むか」に対し受け持ち看護師からのお便りを望む患者は68%

になった。透析歴、年齢別に有意な差は無かった。(図13)

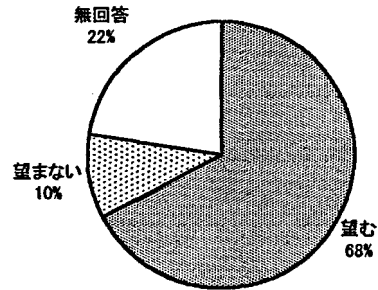


図13 看護師からお便りを望むか

患者が理解できないとした検査項目は、β 2MG, i-PTH, KT/V、プレアルブミンの順で半数以上を占めた。日頃よく聞くHt、Ca、IPなどは、理解できる患者が多かった。透析歴、年齢別に有意な差は無かった。(図14)

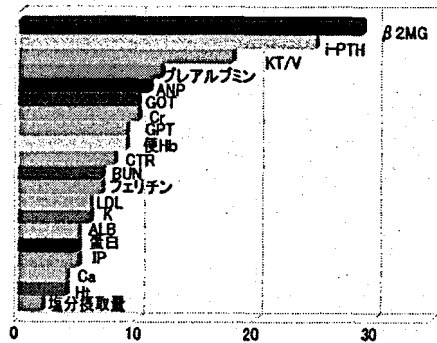


図14 患者の理解できない検査項目

【対象】プライマリーを受け持つ透析センター勤務年数3未満3名、7~10年6名 計9名を対象に無記名の投票形式でアンケート調査を施行。回答率100%

【看護師のアンケート結果】

「個人箋は患者指導に役立っているか」に対して、78%が「役立っている」と答え「必要な情報が一枚の用紙になっているため、患者の状態、問題点の把握がしやすい」「患者と共に状態が把握でき、問題点の共有ができる。」「コミュニケーションが図れ、信頼関係につながられる」が理由としてあがった。(図15)

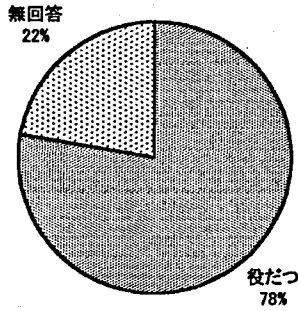


図15 個人箋は指導に役だつたか

「説明に、困難な項目があるか」に、77%が「ある」と答え理由に「学習不足」、「個人箋のみでは、説明しきれないことがある」と答えた。(図16)

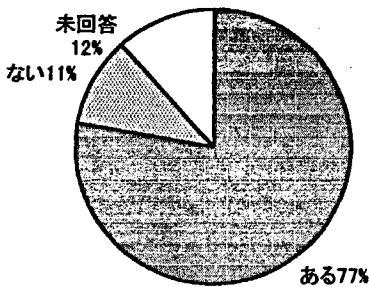


図16 説明に困難なことはあるか

「説明が困難な項目はなにか」には、検査結果に6名、透析条件に2名、体重増加量に1名、透析時注射薬に1名が、「説明が困難」と答えた。(図17)

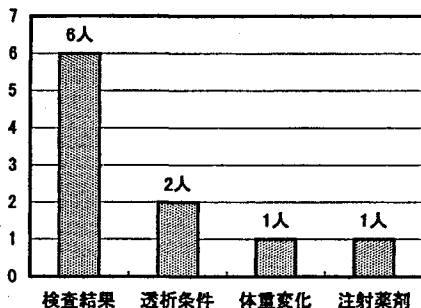


図17 説明困難な項目

### 【考察】

- 今回は、個人箋を活用できていると答えた患者が正しく理解しているか、本当に自己管理に有効かの調査はできていないが、多くの患者が個人箋を、自己管理の指標として活用していることがわかった。しかし、「理解困難な項目がある」「受持ち看護師の説明に満足していない患者がいる」こともわかった。このような患者を減らすことが必要だと考える。
- 受持ち看護師は、個人箋を指導に活用していたが、指導に困難な項目があることがわかった。患者が自己管理のために正しく理解ができ、満足してもらえるような指導をするためには、個人任せの学習のみでは限界があると考え。今後、当院透析センターとして集団的に知識と指導力を向上していく必要があると考える。

### 【結果】

- 個人箋は、患者にとって自己管理ツールとして有効であり、受持ち看護師においても指導のツールとして有効に活用されていることがわかった。
- 課題として、受持ち看護師は、集団的に指導項目の知識をより深め、患者指導力をアップしていかなければならないと考える。

### 参考文献

- 1) 1997年第1版第1刷発行「患者さんとスタッフのための糖尿病教室」編集者 阿部隆三 医歯薬出版株式会社
- 2) 2004年改訂版第4刷発行「優しい透析患者の自己管理」編集者 秋澤忠男 株式会社医薬ジャーナル社
- 3) 1999年初版発行「インフォームドコンセントのための図説シリーズ透析療法」監修者 大平征爾